

## <資料>新著・文献紹介

角田分, 2009. Swans in Japan -その生態を追う-. 自費出版, 酒田市. (317ページ)

会員の角田分さんが、ハクチョウ類に関するこれまでの観察記録をまとめて、1冊の本にまとめました。

冬の渡来する多くのハクチョウ類は、野生動物の中では人に慣れやすく、比較的身近な存在だともおもいますが、その生態はそれほど詳しく調べられているわけでは無いともおもいます。今回の著書はおもに越冬期の行動と渡りルートを自分の観察に基づいてまとめたものです。目次は：ハクチョウの種類、ハクチョウ類の識別、飛来、冬に備える、採餌、給餌、水面を走る、飛翔、ねぐら、水浴び、羽繕う、着水、争う、近寄る、闘争、傷病、羽ばたく、休息、迎春、北海道・東日本の主な中継(越冬)地です。

価格は2,100円(税込)で、送料は1~3冊までは500円です。

申込は、電話(090-9741-5990)またはEメール(f7dyq@vmail.plala.or.jp)で申込をし、現金書留または銀行振込で送金してください。

渡辺朝一, 2009. 冬期のコハクチョウの採食圧の有無と翌夏のマコモ群落の稈数・稈高との関係. 水草研究会誌 (91): 30-34.

茨城県菅生沼でマコモ群落に対するコハクチョウの採食の影響をコハクチョウの渡去後に調べた。マコモの地上部の乾燥重量は、採食圧のない所より採食圧の高い所における方で有意に多かった。また稈高も採食圧の高い所で有意に高かった。これらの理由として、採食圧の高い方がマコモの春の発芽が早い、前年の枯稈がないため発芽期により多くの日照を受けたこと、コハクチョウの排泄物による施肥効果などが考えられる。

### ～新聞記事から～

ナキハクチョウ飛来 (産経新聞, 2008年12月27日)

ナキハクチョウ1羽が松江市湖北平野にコハクチョウの群れに混ざって飛来。